

平成23年度 生涯学習講座受講生募集中！

今年で9年目を迎える「生涯学習講座」は、日本画や洋画等のものづくり講座を中心に、各種文化講座、そしてこども講座まで幅広い内容で全67講座をご用意しています。

今年度の新講座として、似顔絵を楽しく描くことを指導する「楽しい似顔絵と人物画の描き方」講座や作品制作を通して表現する活力を体験する「生きる力を形にしよう」講座等を開講致します。講座の詳細は本学HP(右記参照)をご覧ください。ご希望の方には、パンフレットを無料でお送り致します。(文化事業部)

※受付は先着順で、定員になり次第締切らせていただきますのでご了承ください。

※「講座の雰囲気を見てから参加したい」という方のために自由見学会を開催します。4月3日(日)～5月7日(土)に開講している講座を随時見学できます。ご希望講座の開講日程を事前にお電話でお確かめの上、お越しください。(自由参加、申込み不要)

【講座詳細】

URL: <http://www.kyoto-saga.ac.jp>をご覧ください。

HPからもお申込みいただけます。

【パンフレット請求・お問合せ先】

〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
京都嵯峨芸術大学 文化事業部
TEL:075-864-7898 FAX:075-882-7770
E-mail: bunka@kyoto-saga.ac.jp

本学関係者による展覧会情報

■竹内三雄／彫刻

『Sculpture by the Sea aarhus-Denmark』

日時:6月2日(木)～7月3日(日)

会場:オーフス市内の公園・遊歩道(デンマーク)

附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール／あらし山びこスケジュール

附属博物館

■『京都嵯峨芸術大学の先人達 第4回 ～工芸～』

日時:4月2日(土)～30日(土) 10時～17時 休館日:日曜日

主催:京都嵯峨芸術大学

■『嵯峨大念仏狂言の面』

日時:5月31日(火)～6月19日(日) 10時～17時

休館日:月曜日 ※通常の休館日と異なります

主催:京都嵯峨芸術大学 協力:嵯峨大念仏狂言保存会

■『京都嵯峨芸術大学所蔵 制作展買上作品展 40年のあゆみ1』

日時:7月5日(火)～31日(日) 10時～17時

休館日:7月10日(日)、17日(日)、24日(日) ※7月18日(月・祝)と31日(日)は開館

主催:京都嵯峨芸術大学

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

■『学園創立40周年記念プレイベント 京都嵯峨芸術大学 選抜作品展 美術・造形部門』

日時:～4月10日(日) 9時～17時 無休

主催:京都嵯峨芸術大学

■『学園創立40周年記念プレイベント 京都嵯峨芸術大学 選抜作品展 デザイン部門』

日時:4月12日(火)～24日(日) 9時～17時 ※最終日16時まで 無休

主催:京都嵯峨芸術大学

■『新村則人のポスター展』

日時:5月17日(火)～29日(日) 10時～17時 5月23日(月)は休館

主催:京都嵯峨芸術大学 40周年記念事業室

■『韓国・現在美術の地層』～清洲芸術大学の教員と作品～

日時:5月31日(火)～6月12日(日) 10時～18時 無休

主催:京都嵯峨芸術大学

協力:京都嵯峨芸術大学 芸術学部 造形学科 油画研究室

■『circulation3』

日時:6月21日(火)～26日(日) 12時～18時 ※最終日16時まで 無休

主催:京都嵯峨芸術大学 芸術学部 メディアデザイン学科 メディアデザイン研究室

京都嵯峨芸術大学 短期大学部 美術学科 現代アート研究室(共催)

■『ちよっと変わったOB展』

日本を元気にする創作、創造、新境地。

日時:7月18日(月・祝)～31日(日) 10時～18時 ※最終日17時まで 無休

主催:京都嵯峨芸術大学

※展覧会スケジュールは変更になる場合があります。ご了承ください。

「編集後記」

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げます。

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。2011年度がスタートしました。

1971年(昭和46年)に設立認可を受け発足し、今年で学園創立40周年を迎えた学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学。伝統と文化が息づく京都の嵯峨・嵐山の地で目一杯アートと向き合い、充実した学生生活をお過ごしください。

(広報室)

40th anniversary



KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS

学校法人 大覚寺学園

京都嵯峨芸術大学

大学院・芸術学部・短期大学部



京都嵯峨芸術大学広報 第36号 2011年4月1日発行 編集:京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
発行:学校法人 大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859 FAX.075-881-7133 info@kyoto-saga.ac.jp www.kyoto-saga.ac.jp

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS APRIL, 2011

京都嵯峨芸術大学 広報

CONTRIBUTION	特別寄稿 学園創立40周年を迎えて 大覚寺学園 理事長 黒髪寛延
NEWS	「研心遊意」の学園生活を 京都嵯峨芸術大学 副理事長・学長 三好郁朗 東北地方太平洋沖地震について／理事会報告:2011年度運営体制／名誉教授の称号授与／ 教員人事／学園創立40周年記念事業 連続講演・シンポジウム/展覧会スケジュール 大学報告:マリアンヌ・クルーズ 作品寄贈/one room'11(2月2日～9日)開催報告／エントランスホール 生け花展示／ 2011年度 入試結果報告／2010年(平成22年)度 卒業式／第39回 京都嵯峨芸術大学 制作展開催報告
TOPICS	教員・在学生の活躍:2011東北電力カレンダー／第20回富嶽ビエンナーレ展／版画分野 公募展受賞・入選／本学学生がインテリアコーディネーター資格を取得！ 地域連携:スープであったまっciao! 附属機関:博物館・ギャラリー企画報告 卒業生の活躍:平田 さちさん 大学行事予定:Apr.2011 ～ Jun.2011
INFORMATION	平成23年度 生涯学習講座受講生募集中！ 本学関係者による展覧会情報 附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール／あらし山びこスケジュール 編集後記

36

学園創立40周年を迎えて

特 別 寄 稿 大覚寺学園 理事長 黒髪寛延



黒 髪 寛 延 くろかみ かんえん

平成23年度「学園創立40周年」、5年、10年と時を刻みながら、踏みとどまることなく歩んできた学園を思うとき、改めて創設時のことがなつかしく思い出されます。

大覚寺の門前に「嵯峨美術短期大学」と書かれた看板、寺内の施設を教室とし、戸惑いながら寺の境内に入る学生たちの姿、そしてはじめた本格的な美術の授業、池の畔の小さな空き地をグラウンドにして受けた体育の授業、新校舎の完成を待つ僅かの期間に得た大学らしからぬ貴重?とも言える体験、有栖川に仮校舎を建て、そして現在の位置に校舎が完成するまで、山積した課題をひとつひとつ現実のものとしながら、この40周年を迎えたことで感慨も一入、美しくリニューアルした正門に整然とした趣きを感じないではられません。

思えば昭和46年、第1回入学式にあって、大覚寺の門前が若き新入生で賑わう声と澄んだ青空に映える桜の木々が昨日のように鮮やかに蘇ってくるのです。そのころ、大覚寺の一青年僧としてその光景を見ていた私は、揺るぎない歴史的背景と宗祖弘法大師と嵯峨天皇の築かれた文化の土壌に育まれたこの地に入学する若者たちが、前途洋々と時代の先端を拓くアーティストに育つのだと、暖かい何かを感じるのを禁じ得ませんでした。時代は変われど芸術を志す若き心は、常に世の無常と有情を本源的な創造の原点としてとらえ、弛まぬ創作の情熱の炎を燃やしていくことでしょう。

仏教の言葉に「回向(えこう)」というのがあります。本来は、死者に対する成仏を願う祈りですが、現代的な視点からみれば、自らの善行を他者に施す、そしてまた自分へと帰結してくる、つまり人々に感動を与える芸術が、やがては自分をも幸せにしていく、そうとらえることもできるのではないのでしょうか。とかく自分しか見えない、ともすれば自分さえ見えないというこの時代にあって、確固とした芸術理念を持ちながら「美」という感動を人々に与え続ける芸大生こそ大覚寺学園の誇る精鋭たちであると心から信じてやみません。

京都嵯峨芸術大学で学ぶみなさん、2年間または4年間、堂々と自らの芸術を謳歌できる学生生活を送るとともに、悔いなき人生の1ページとなるエスキースを描いて下さい。

「研心遊意」の学園生活を

特 別 寄 稿 京都嵯峨芸術大学 副理事長・学長 三好郁朗



三 好 郁 朗 みよし いくお

本学は、1971年に開学された嵯峨美術短期大学が前身ですが、それから数えて40年、今年で開学40周年を迎えました。その間、2001年に京都嵯峨芸術大学芸術学部を開設、短期大学の方も京都嵯峨芸術大学短期大学部と改称、さらに2005年には大学院芸術研究科を開設し、今日に至っています。

数ある大学のなかで、創立40年はまだまだ若い大学ですが、すでに数多くの卒業生が、芸術家として、社会人として、各方面で大活躍してくれています。開学以来本学の教育を支えてくださった先生方は、そのほとんどが世代交代となり、新たに学園の進むべき道を模索する時が来ていますが、これまでの歴史を大切にこそ、明日があるというものです。40周年の今年は、ささやかながらいくつかの記念事業を企画し、みなさんと一緒に来し方を振り返り、来るべき明日を語り合うきっかけにしたいと思います。そうした事業のひとつとして、本部校舎の耐震化ならびに改修の工事、あわせてキャンパス全体の美化工事をおこないましたが、昨年12月までにほぼ完了し、今年度入学のみなさんは、新装なった学舎にお迎えできた次第です。

この機会に、これまでA号館、B号館と、いたって散文的に名づけていた校舎を、新しい名称で呼ぶことにしました。芸術学部が入っているこれまでのA号館を「研心館」、正面玄関のあるB号館、主に短期大学部が入っていますが、こちらは「遊意館」としました。いずれも、弘法大師空海の「声字実相義」という書物から頂いた名称です。大師が後学の者たちに向けて、「もつとも研心遊意せよ」、すなわち「しっかりと心みがき、しっかりと学べ」と説いておられる箇所です。

メインキャンパスから少し離れた桂川沿いに、2004年に建った明るく瀟洒な建物があります。こちらは「有響館」と呼んでいますが、この「有響」も、同じ「声字実相義」の「五大皆響きあり」という有名な言葉から来ています。本学の発信するメッセージが、力強い響きを有し、広がっていったほしいという願いをこめました。なんだかむづかしい名前ばかりと思われるかもしれませんが、本学は真言宗大本山大覚寺によって開学された大学であり、その大覚寺にとつての宗祖ともいべき空海にちなんだ命名なのです。

入学されたみなさんは、本学がそうした宗教系の学園であることを、日頃の大学生活においてさほど意識されることはないと思いますが、建学に取り組まれた方々のこころざし、ここまで学園を育ててこられた先人諸賢のいとなみを忘れることのないよう、そうした誓いをこめた命名と考えてください。本学では「伝統と革新」を教育の基本方針にしていますが、革新とはすなわち、日々新たな芸術教育を目指す心であり、伝統とは、わが国の美的、精神的な文化を大切にしたい芸術教育を目指す願いです。そうした思いを胸に、これからの2年、あるいは4年、ともに研心遊意できることを楽しみにしています。

東北地方太平洋沖地震について

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。本学では、災害救助法適用地域の入学生・在学生に対し、申出により学費等に関する特別措置をとります。被害に遭われた学生・保護者の皆様は学生課までご連絡ください。

理事会報告

■2011年度運営体制

2011年度の各種運営、教学、附属施設、研究機関の体制が、下記の通り編成されました。(2011年4月1日付)(総務課)

執行部体制(教授会運営協議会)			
学 長	三好 郁朗	教授(文化事業部長兼務)	
副学長	箱崎 睦昌	教授(芸術学部長兼務)	
短期大学部長	北村 正己	教授	
教務部長	宇野 和幸	教授	
学生部長	坂田 岳彦	准教授	
入試部長	増田 洋	教授	
総務部長	午居 隆平	事務局長(兼務)	
教学体制			
造形学科長	宇野 和幸	教授(兼務)	
デザイン学科長	森本 武	教授	
メディアデザイン学科長	三宅 章介	教授	
観光デザイン学科長	真板 昭夫	教授	
大学院研究科長	箱崎 睦昌	教授(兼務)	
美術学科長	藤本 秀樹	教授	
専攻科長	北村 正己	教授(兼務)	
講義部門長	佐野 仁志	教授	
美術部門長	北村 正己	教授(兼務)	
デザイン部門長	藤本 秀樹	教授(兼務)	
企画室長	佐藤 文郎	准教授	
広報室長	松本 泰章	教授	
文化事業室長	芳野 明	教授	
学生相談室長	坂田 岳彦	准教授(兼務)	
附属機関、研究機関体制			
博物館長(ギャラリー兼務)	桑田 政美	教授	
芸術文化研究所長	佐々木 正子	教授(図書館長兼務)	
観光デザイン研究センター所長	真板 昭夫	教授(兼務)	
40周年記念事業室長	増田 洋	教授(兼務)	

■名誉教授の称号授与

2011年4月1日付で、次の先生方に名誉教授の称号が授与されました。(総務課)

吉水 絹代 先生 ※2011年3月31日ご退職
(元 芸術学部造形学科教授)

金氏 脩介 先生 ※2011年3月31日ご退職
(元 芸術学部観光デザイン学科教授)

■教員人事

【退職】(2011年3月31日付)下記の方が退職されました。(総務課)

吉水 絹代(芸術学部造形学科教授)

金氏 脩介(芸術学部観光デザイン学科教授)

清瀧 裕子(短期大学美術学科准教授)

【新任】(2011年4月1日付)下記の方が着任されました。(総務課)

植林 拓(芸術学部デザイン学科准教授)

上田 香(芸術学部造形学科講師)

岩崎 陽子(短期大学美術学科講師)

【昇任】(2011年4月1日付)下記の先生が教授に昇任されました。(総務課)

芳野 明(芸術学部造形学科)

学園創立40周年記念事業

連続講演・シンポジウム／
展覧会スケジュール

本学では学園創立40周年を記念し、以下の通り本学関係者による連続講演・シンポジウムや展覧会の開催を予定しています。これらの開催は、記念すべき2011年度において継続的に大学や芸術のことを考え、教育を深め、京都の嵯峨にある芸術大学としての役割をもういちど考えてみるための試みです。詳細は、追って本学ホームページ等でお伝えいたします。(広報室)

■3月18日(金)～4月10日(日)【美術・造形部門】

■4月12日(火)～4月24日(日)【デザイン部門】

学園創立40周年記念イベント

「京都嵯峨芸術大学 選抜作品展」

会場：京都嵯峨芸術大学 附属ギャラリー「アーツスペース嵯峨」

出品者：第39回卒業・修了制作展出品者より選抜された学生

■4月23日(土)

講座「ガウディの教えるもの、外尾悦郎の伝えるもの」

講師：外尾悦郎(ヤグラ・ファミリア聖堂 主任彫刻家、本学客員教授)

■5月21日(土)

シンポジウム「生きているデザイン」

講師：新村剛人(グラフィック・デザイナー)、
真板昭夫(本学教授)、竹内オサム(本学准教授)

■6月14日(火)～6月19日(日)

展覧会「まなざしの哲学—京都嵯峨芸術大学の40年—」

会場：京都市美術館別館
出品者：本学教員、本学卒業生

■7月16日(土)

シンポジウム「ファイン・アーツの教育」

講師：仲政明(本学准教授)、日野田崇(本学准教授)、
大島成己(本学准教授)

司会：芳野明(本学教授)

■9月17日(土)

シンポジウム「デザインを教える」

講師：辻勇佑(本学准教授)、坂田岳彦(本学准教授)、
竹内オサム(本学准教授)

司会：芳野明(本学教授)

■10月15日(土)

シンポジウム「大学における芸術教育」

基調講演：鷲田清一(哲学、大阪大学総長)

パネリスト：森雅彦(西洋美術史、宮城学院女子大学教授)、
金子一夫(美術教育史、茨城大学教授)、
奥忍(音楽教育学)、三好郁朗(本学学長)

司会：芳野明(西洋美術史、本学教授)

※上記は2011年2月現在での予定です。
変更となる場合もございますので予めご了承ください。

大学報告

マリアンヌ・クルーゾ 作品寄贈

本学附属博物館では、2010年10月10日(日)より25日間にわたって絵は詩のごとく、詩は絵のごとく マリアンヌ・クルーゾの世界」と題した、フランスの女流画家マリアンヌ・クルーゾの展覧会を開催し、それまで日本ではあまり目にする機会のない作品の数々を観ていただきました。

本展終了後、マリアンヌ・クルーゾと晩年をともに過ごし、作品を愛

藏されている田中美智子様より、展覧会の記念にと本学への作品寄贈の申し出をいただき、1月25日(火)に田中様より三好郁朗学長に寄贈作品が手渡されました。

寄贈作品は、美しい色彩のバステル画「漁からの帰りに」、本学の展覧会開催のきっかけとなった『人魚姫』(アンデルセン)の挿画本(日本語版/フランス語版)、マリアンヌ・クルーゾ最晩年の挿画本『カッサンドルの愛』(ロンサール)の合計4点です。これらの作品は本学附属博物館において所蔵し、今後活用させていただきます。(広報室)

マリアンヌ・クルーゾ(1908～2007)

フランスの女流画家。1908年に生まれ、生涯パリを中心に活動。芸術運動が盛んだった時代の中で様々な芸術家たちと出会い、明るく透明感溢れるバステル画や油絵、挿画本、版画、さらには陶芸などの立体作品まで幅広く手がけた。晩年も創作意欲は衰えることなく、2007年に99歳で亡くなるまで作品を描き続けた。

one room'11(2月2日～9日)開催報告

one roomが今年度目指した物は「一人の作家として自分が今立つ美術においての現在地を、何よりも確かに実感する事」でした。なぜなら先の見えぬ制作行為において、

各々が自身の指針をより明確にする事が大切であると感じていたからです。one roomが展開形式において行われる事はそれを学ぶ事に繋がりました。制作において、展示において、プレゼンにおいて、学生が一人の作家としての責任を引き受け、自身を深く把握する事が展覧会を開催するにあたって必要不可欠であったように思います。またゲストに美術作家のChim!Pomを招き、講演会、講評会を開き、作家との交流を行えた事は学生にとって大きな刺激になり、制作を助む為の大切な経験になったと思います。学生有志によって行われるこの企画が、学生によって盛り上げられ、京都嵯峨芸術大学の美術、デザインのひとつの指針として受け止めて頂ければ幸いです。最後に、ご来場いただいた皆様、企画にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。(one room運営委員会)

エントランスホール

嵯峨御流生け花展示

1月14日(金)より、本学エントランスホール1Fに生け花が展示されています。こちらは、本学非常勤教員として華道の授業を担当、本学園の評議員でもある辻井ミカ先生が生けられたもので、4月2日(土)入式式まで展示されます。(広報室)

2011年度 入試結果報告

昨年8月のAO入試体験授業から始まった2011年度入試も、3月をもって全日程を終了しました。芸術学部では、2011年4月よりメディアデザイン学科と観光デザイン学科が、デザイン学科へ改編されます。また、短期大学部美術学科では、「美術」「デザイン」「マンガ」の3分野制となります。それに伴い実技試験の見直しを実施しました。志願者総数は芸術学部384名、短期大学部美術学科154名となりました。

2011年には、本学創立40周年記念イベントが行われますので、受験生や高校、美術研究所の先生方等に対しての告知を充実していきたいと考えています。(入試課)

2010年(平成22年)度 卒業式

2010年度京都嵯峨芸術大学および京都嵯峨芸術大学短期大学部卒業証書・学位授与式、ならびに修了証書授与式を2011年3月19日(土)に執り行いました。卒業・修了者数は以下の通りです。(教務課)

○京都嵯峨芸術大学	
大学院 芸術研究科	……………7名
芸術学部 造形学科	……………63名
芸術学部 メディアデザイン学科	……………53名
芸術学部 観光デザイン学科	……………24名
○京都嵯峨芸術大学 短期大学部	
専攻科	……………17名
美術学科 美術分野	……………22名
デザイン分野	……………105名

計	291名
---	------

TOPICS

卒業生の活躍

平田 さち ひらた さち

高知県 高知県立高知小津高等学校 出身
2000年 嵯峨美術短期大学 美術学科 美術専攻 空間造形コース 卒業

会社員をしながら作家活動を続けている平田さん

制作のなかで日々感じられることについてお話をいただきました

—現在のお仕事や作家活動について教えてください。

普段は書籍・ステーションナリ等を扱う大手文具店で会社員をしながら、美術作家として年に数回作品を発表しています。私は、たくさん色を使って空間や場所を変化させ、ヒトが自由に入ったり眺めたりできる広場のようなインスタレーションを制作しています。これまでもギャラリーや美術館だけではなく、空地や広場、街中と、色々な場所で展示してきました。そういった要素の多い空間での展示を経験したことで、私が体感したリズムを保ちながらその場が変化し続ける、つまり多くの要素を取り込みながら作品が広がっていくことに興味を持ち、制作を続けています。今はダンス・パフォーマンスの舞台でインスタレーションを発表する、というコラボレーションにチャレンジしていて、毎日舞台上で流れる予定の音楽を聞いているんです。

—作品を制作するうえで喜びや、日々感じられることを教えてください。

私は作品を展示する現場で作るので、搬入日当日まで作品を見る事ができません。搬入日までは、ドローイングを描いたり様々なシミュレーションをしますが、全てイメージのみなんです。ですから展覧会期間が近づくと、形がないことに対する不安や、プレッシャーを感じることが多くなつて、ただその分、作品が完成した瞬間は何にも変えられないぐらいの達成感で満たされます。まさに「作品を作ったみたい」と思える瞬間です。あと、作品を制作してて解しにくいと思う時は、私の作品を見て感想や反応をもらえた時ですね。特に、昔から私の作品を知っている大学時代の友人に「良かったよ」といつてもらえた時は「通じた」という達成感が大きくて、とても嬉しかったのを見ています。

—学生時代のお話や後輩へのメッセージなどを教えてください。

私が学生時代に印象的だったのは、先生や教務助手などの先輩が展覧会や個展に向けて制作している姿ですね。それを手伝ったり、側で見ていて「何かも作りたい、形に残したい」と思い立ち、2年生の夏休みからたくさん作品を制作したのを見ています。使っていない実習室を使ってインスタレーションをしてみたり、近くの公園で作品を設置してみたり、友達を巻き込んで徹夜で制作をしたりと、実習とは別に作品をたくさん制作していました。2年という短い時間でしたが、そこでの人との出会いはとても大きかったと思います。色々な人との出会いがあり、今の私があります。作家活動が続けいくためのアドバイスやヒントは、私自身も全くわからないんですよ。私がアーティストとして大切にしていることは、日々の生活も作品を作るように丁寧に送ること、色々な人の話を聞いて、自分の話も相手に伝えること…シンプルですがとても大切なことだと思っています。皆さんも、今できることを大切に学生生活を楽しんでください。



「プレゼントならたくさん色を使おう!」
プレゼントならサブライズで!
そして、つかい方が持続したい!!」
写真提供:神田アートビジュアルセンター
撮影:表 恒臣



「narkissos」
撮影:草木 貴照



「無題」

教員・在学生の活躍

2011東北電力カレンダー

本学学生 鎌田沙織さんの作品が
東北電力のカレンダーに採用!

東北電力株式会社(宮城県仙台市)の2011年カレンダーに、本学芸術学部観光デザイン学科の鎌田沙織さん(2011年3月卒)の作品が採用されました。本品はA5横型の卓上カレンダーで、「御伽の国へ」というテーマのもと、「鶴の恩返し(山形県)」や「笠地蔵(新潟県)」など東北地方に古くから伝わる御伽話を題材にした切り絵作品で構成されています。鎌田さんは、小学生の頃から趣味ではじめた切り絵が評判を呼び、現在では切り絵ライブや個展を開くなど切り絵作家としても精力的に活動中。鎌田さんの今後に要注目です。(広報室)

第20回富嶺ビエンナーレ展

秀作揃いの公募展で本学学生が佳作を受賞

「第20回富嶺ビエンナーレ展」で、本学芸術学部、造形学科日本画分野の湊智咲さん(2011年3月卒)の作品「進」が佳作を受賞しました。

本展は、将来活躍が期待される芸術家を発掘し、奨励する全国公募型の総合美術展で、出身や在住、国籍を問わず広く作品を募集し優れた作品を結集することにより、更なる芸術文化の向上を図るものです。1月2日(日)から30日(日)にかけて静岡県立美術館で行われた本展の会場には、湊智咲さんの作品を含む入賞作品13点と入選作105点が展示されました。(広報室)

版画分野の公募展受賞・入選

受賞ラッシュは続く!

版画分野の学生が受賞・入選

「第36回 公募昭和美術会展」において、本学芸術学部、造形学科版画分野3回生の黒野祥絵さんの作品が「新人賞」を受賞しました。本展は京都の芸術文化の更なる発展の一助となるべく、毎年京都市美術館で開催されている公募展で、1月25日(火)から30日(日)の会期中には京都市美術館に黒野さんの作品が展示されました。

また、同じく版画分野の石塚恵子さん(2011年3月卒)の作品「To beが、」第11回 浜松市美術館版画大賞展」において入選しました。こちらは創作活動の一層の向上普及を図るとともに、版画への関心を高めることを目的に開催された公募展で、石塚さんの作品は3月1日(火)から20日(日)までの期間中、浜松市美術館に展示されました。(広報室)